目次

収蔵作品の修復および保護処理報告　13
山口孝子

コンテンポラリーダンスをめぐる論考
——身体というメディアの有効性について　33
丹羽晴美

「日本の新進作家展における〈現代性〉とその課題」　47
中村浩美

〈資料編〉

収蔵作品の修復および保護処理報告

山口孝子（東京都写真美術館　保存科学専門員）

収蔵作品の修復および保護処理報告

1．はじめに

当館が収蔵している作品は、現在約２万３千点であるが、毎年、寄贈・購入によって増え続けている。平成15年度は寄贈895点；購入150点、平成16年度は寄贈283点であった。

これらの膨大な作品は、常に経時変化による脆化、分解、明退色、暗退色、ステイン等の化学的劣化やカビや害虫等の生物的劣化、変形、擦り傷、ひび割れ、乳剤面のはがれ、破損等の物理的劣化の危険にさらされている。

こうしたあらゆる劣化の要因を軽減し、貴重な文化的財産である作品をできるだけ収蔵時の状態のままで保存するには、展示室や収蔵庫の保存環境を整備、維持、点検していくことが不可欠である。

また、傷んだ収蔵品に関しては、その状態に応じて速やかに適切な修復・保護処理を施さなければならない。そのため、当館では平成15年度より収蔵庫の棚卸しを行ない、写真画像に悪影響を与える可能性がある全ての輸入写真用保存箱および間紙を、ISO14523（Photography -- Processed photographic materials -- Photographic activity test for enclosure materials／写真－現像処理済み写真感光材料－写真包材の写真画像への影響度試験方法）に基づく国産品に交換すると同時に、収蔵品の状態調査も行なっているところである。

保存環境の維持、収蔵品の保存状態の整備には、膨大な時間と経費が必要である。しかし、保存状態や保存環境の解析、修復方法やその材料の選定等の経過記録を蓄積することによって、効率的かつ効果的な手法が確立できると考える。

以上の背景のもとで、今後の検討資料の一端として、平成16年度より行なっている収蔵作品の修復作業と保護処理を報告する。

２．修復

２－１．No.12　Mets　(20102650)

作　家：ジョルジュ・ルース（ROUSSE, Georges）
制作年：1994年
技　法：シルクスクリーン／紙
寸　法：3000×3010mm
撮影地：ニューヨーク

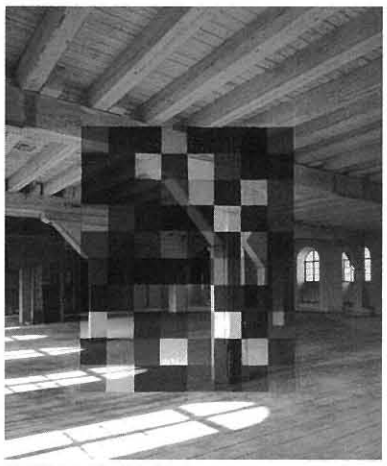

写真2.1.1　No.12　Mets

作品の概要

作品は、1999年にメルシャン軽井沢美術館で開催された“ジョルジュ・ルース「聖なる光」展－絵と建築と写真が出会うとき－”で展示された後、作家本人から当館に寄贈された（写真2.1.1）。展示の際には、垂直方向に３分割、水平方向に２分割された６枚を、全体寸法3000×3010mmの一画面に構成する。インキは三原色が使用された網点であり、作品は、建築物の室内の中央に幾何学模様が描かれている。

他館での展示方法および保存状態の調査

うらわ美術館（まどわしの空間－遠近法をめぐる現代の15相、会期2003年11月18日～2004年２月22日）への貸し出しの折、当館は、同様のルース作品を収蔵している、群馬県立近代美術館および栃木県立美術館において、展示方法や保存状態に関して調査を行った。

その結果、群馬県立近代美術館に於いては、６枚全てを貼り合わせ、さらに周縁を４cm程の幅で補修用テープfilmoplast（独・HANS NESCHEN AG）が貼られていた（写真2.1.2）。展示の際には、壁のボードとfilmoplastの部分を両面テープで接着する。一方、栃木県立美術館では、６分割された作品を和紙で裏打ちして、一枚の作品として保存・展示をしている。

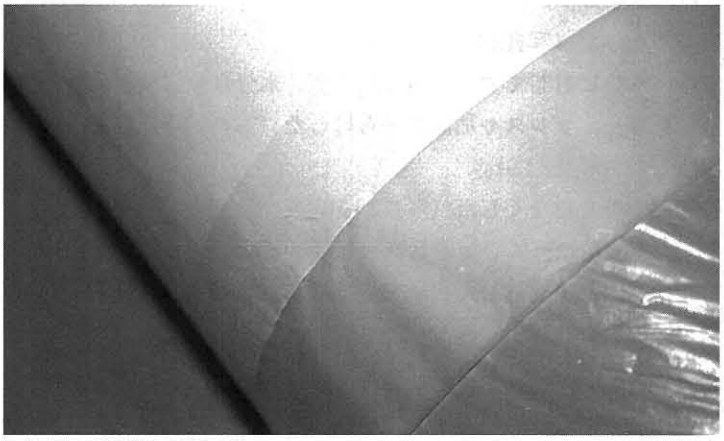

写真2.1.2　群馬県立近代美術館
ルース作品の保存状態

破損の経緯

当館では、他館の収蔵方法を検討した結果、保存スペースや運搬作業、接着剤、作品の支持体（紙）の風合いを考慮に入れ、作品には何も処理を加えないこととした。その為、事前に展覧会担当者と、作品の安全な展示方法を次のように検討した（写真2.1.3、2.1.4）。

1）作品上部を中性紙で覆ったゴムで挟み、さらにアクリル板で固定し、それを壁に取り付ける。

2）下段の上部（中央部）のアクリル板には、上段の作品が舞い上がって破損を生じないように、フックを取り付ける。

3）通気孔付近での展示は行なわない。

しかしながら、今回、作品の取り外し作業中に、作品の重みが不均一になり落下し破損を生じたため、次のような修復を行なった。

写真2.1.3　うらわ美術館展示風景
まどわしの空間ー遠近法をめぐる現代の15相
2003年11月18日（火）～2004年２月22日（日）

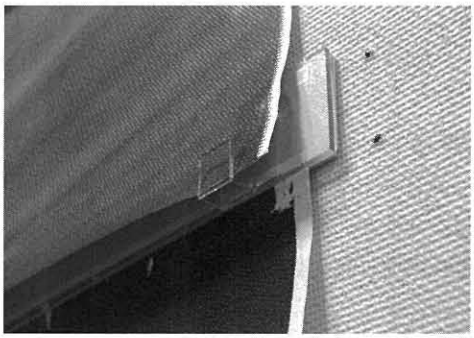

写真2.1.4　上段と下段の作品の合わせ部分

修復前の状態

破損が生じたのは、作品を構成する６枚のうちの1枚（1520×1097mm）であった。画面に向かって左下には、左辺から15mmを起点として左斜め上方に10mm、水平方向に６mm、さらに左下に向かって８mmの釣り鐘型の裂けが生じていた。また、左辺から26mmを起点に、上方10mmの箇所にも裂けがあり、その周辺は、以前の展示で使用した両面テープを除去した際に合剥ぎされ、支持体は薄くなっていた。裂けの周りは支持体に引きつれが認められ、小部分紙が二層に分かれていた。支持体の紙は機械漉きの洋紙で中程度の厚みを持つ。

修復手順

① 修復前の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった（写真2.1.5、2.1.6）。

② 水による滲みテストを行なった。インクは、水分に対してすぐに溶け出さず、水分は紙にゆっくり浸透した。

③ 裂けの周りの引きつれ部分に裏面から水分を与え、プレスや加湿で平らにした（写真2.1.7、2.1.8）。

④ メチルセルロースを使用して、裂けは接着した（写真2.1.9）。

⑤ 接着部分は、コテにより加温・加圧し接着部を目立たなくした（写真2.1.10）。

⑥ 裏面に和紙（楮100%、紙舗直 K-19）をメチルセルロースで接着し補強した（写真2.1.11、2.1.12）。

⑦ 和紙が表から見えないように、作品より僅かに内部で補強した和紙を切り取った（写真2.1.13）

⑧ 修復後に点検、写真撮影および修復記録を作成した。

修復担当：山領絵画修復工房

写真2.1.5　全体図

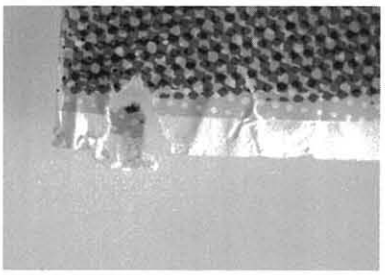
写真2.1.6　破損部修復前

写真2.1.7　引きつれを平らにするため、裏面から水分を含ませる

写真2.1.8　吸取紙をあてて押さえる

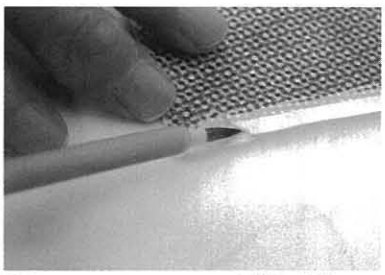
写真2.1.9　メチルセルロースを使用し接着

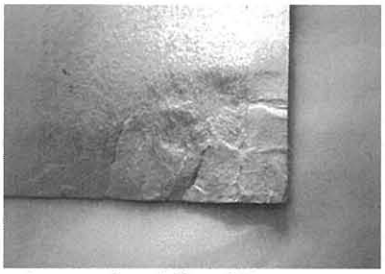
写真2.1.10　裏面、接着した状態

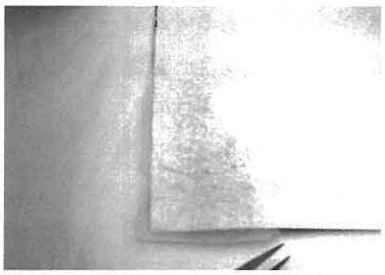
写真2.1.11　補強のため和紙を裏面に接着

写真2.1.12　プレス

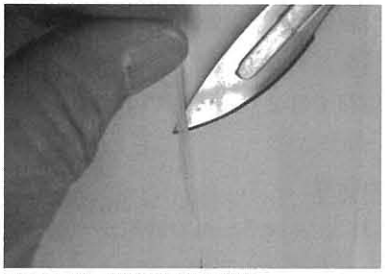
写真2.1.13　補強和紙の切り取り

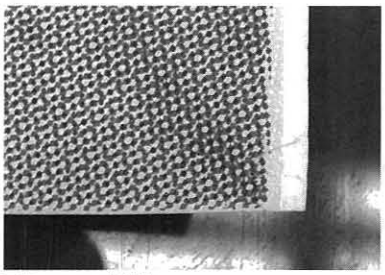
写真2.1.14　修復後

今後の課題

現在は今までと同様に６枚を重ね、支持体が底に接して折れが生じないように、中性紙保存箱の中央に浮かせた筒に巻き、保存している。今後の展示の際には、より高い安全性を確保するために、作品の上辺に和紙を貼るなどの補強処置が必要であると考える。

２－２　アジャンの風景、木と水の流れ
(Paysage d'Agen, avec arbre et cours d'eau)（20016000）

作　家：ルイ・デュコ・デュ・オーロン
(DU HAURON Louis Ducos)
技　法：エリオクロミィ
制作年：1872年
撮影地：フランス、アジャン
イメージ寸法：127×190mm
額装寸法：194×258×30mm
署　名：L.DUCOS DU HAURON. 1872
裏　書："Heliochromie faite par les inventeurs A. et Louis Ducos du Hauron et offerte par eux a M.Adolphe Eggis le 2 Avril il 1898."
Vue d' Agent.

写真2.2.1　全体

作品の概要

作品は、1869年にルイ・デュコ・デュ・オーロンが提案した、世界最古のカラー印画方式で制作された、フランス南部の風景である（写真2.2.1）。３色分解ネガからポジ画像を焼付ける前に、減法混色の三原色であるイエロー、マゼンタ、シアン顔料を重クロム酸ゼラチン感光材料に混入し、焼付けた後、各ポジ画像を重ね合わせてカラー画像を作製した。本作品は、現存する２点のうちの１点で、1991年に収蔵された。

修復前の状態

購入時に、４×５mmの剥離が一箇所あった（写真2.2.2）。作品は、支持体に使用されている木の変形や、当館収蔵以前の劣悪な保存環境の影響と見られるゼラチン膜のひび割れが、全体に広がっており、２箇所に画像部であるゼラチン膜の浮きが見られた（写真2.2.3）。

本修復では、画像の至る所に生じているひび割れの補修には危険を伴うので着手せず、修復最優先と考える上記の剥離部と、２箇所の浮きのみ処置した。

修復手順

① 修復前の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。
② 剥離部の実体顕微鏡写真撮影を行い、イエロー、マゼンタ、シアンの顔料を含有する、重クロム酸ゼラチン層の構造を確認した（写真2.2.4）。
③ ゼラチン３％wt溶液で、剥離部は接着した（写真2.2.5）。
④ 画像部の浮きは、ゼラチン溶液で接着し沈めた（写真2.2.6）。
⑤ 修復後に点検、写真撮影および修復記録を作成した。

修復担当：荒井宏子

写真2.2.2　画像部剥離

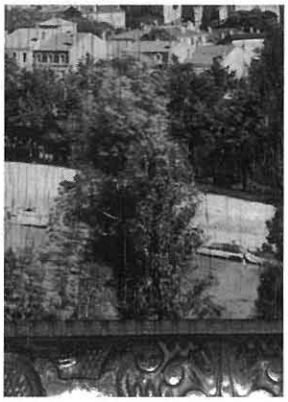

写真2.2.5　ゼラチン溶液で接着

写真2.2.4　顕微鏡写真　×100

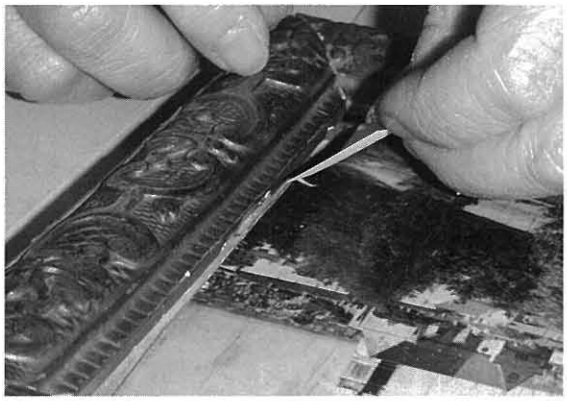

写真2.2.3　画像部の浮き

写真2.2.6　ゼラチン溶液で接着

２－３　ダゲレオタイプ収納革装ケースA　(20100076)

作　家：不詳
作品名：題不詳（ポートレイト）
制作年：1840年代
寸　法：150×120×16mm
撮影地：アメリカ合衆国

写真2.3.1　修復後

作品の概要

ダゲレオタイプの収納ケースは、茶色の総革装で、合わせ木箱にツメが付けられ、上下の箱は裏表から革でつながれている。箱の内側周囲には、ビロードを巻いた縁取りがあり、上箱には赤いビロードを巻いたクッションが、下箱には作品（ダゲレオタイプ）が入るようになっている。箱の表両面に浮き彫りレリーフ（中央に花模様を囲む曲線の枠、周辺部に２重の枠線、周囲１cm程の面取有り）、箱の縁には金箔のラインがある（写真2.3.1、2.3.2）。1993年に収蔵。

修復前の状態

収納ケースの開閉に伴い、ノドのつなぎ部分の革が切断され、上下の箱が離れた状態であった（写真2.3.3）。また、経時変化による木材の変形が原因と考えられる、革の切断が認められ、下箱のソリが大きい（写真2.3.4、2.3.5）。革は劣化しており、角や縁などに小さい欠損が認められた。また、過去に修復を行なった形跡があり、革の破損部に、そのとき使用した糊跡が白く付着していた（写真2.3.6）。この糊跡は、箱に施された金箔の縁取りの一部も覆っていた。

作品を外した箱の底に、紙が膠で貼られていたが、周辺部のみの糊付けであるために、内側部分は浮いていた（写真2.3.7）。糊付けされていない部分は、糊付けされた部分より紙の変色が大きい。また、上箱のクッションを外すと、底には木の目が交互に組まれていた（写真2.3.8）。

修復手順

① 修復前の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。
② 革のメンテナンスは、レザーソープで汚れを落とし、保革クリームを塗布した。
③ 底に貼られていた内張りの紙は、薄く酸性紙で、劣化が激しく変色していた。また、しみも多数あったため、中性紙と交換した。同様に上箱の紙も交換した（写真2.3.9）。糊には中性糊を使用した。
④ 背および箱の縁取りに付着していた糊は、蒸留水と物理的手法で可能な限り除去した（写真2.3.10）。
⑤ 革の破損は、構造的に補強する部分を補修し、箱のゆがみについては、無理な調整は行なわず角の補強のみを施した。これは、作品が下箱に入らなくなる恐れを考慮し、ケースの形態を現状維持するためである。
⑥ 下箱の一短辺は、枠がはずれたまま固定されていた為、戻し、ビロード枠も形態を整えた。
⑦ 箱のつなぎ部分は、元革を残し、革片で外側と内側から補修した後、革の色味を整え、クッションを上箱に戻した（写真2.3.11、2.3.12）。角および外側のつなぎ部分には修復用子牛革、内側には修復用山羊革を使用した。
⑧ 修復後に点検、写真撮影および修復記録を作成した。

修復担当：近藤理恵

写真2.3.2　外観；合わせ箱、革装、留め具付き

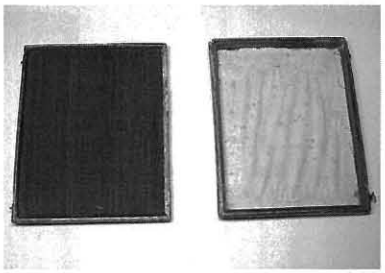

写真2.3.3　つなぎ部分の革が切断、内張りの紙は劣化のため変色

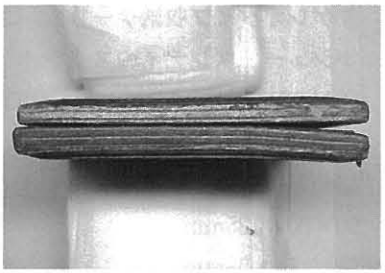

写真2.3.4　下箱の反り

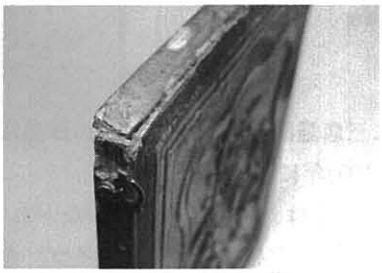

写真2.3.5　下箱の損傷、枠板のはずれ

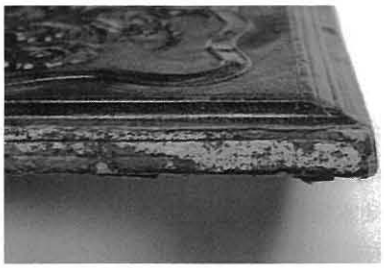

写真2.3.6　背の糊

写真2.3.7　内張りの紙を剥がす

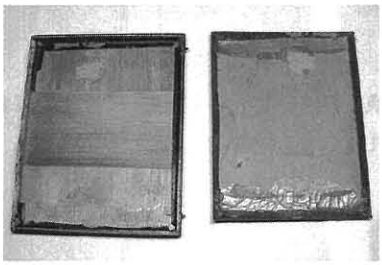

写真2.3.8　ビロードクッションを外した上箱の木の継ぎの部分

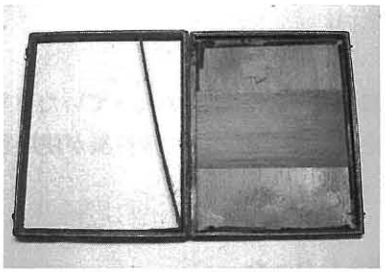

写真2.3.9　下箱の紙を貼る

写真2.3.10　糊跡の除去

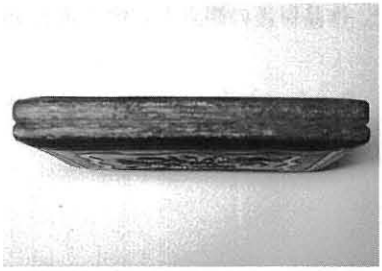

写真2.3.11　背；元革を残し革片でつなぎ、新しい革の色調を整える

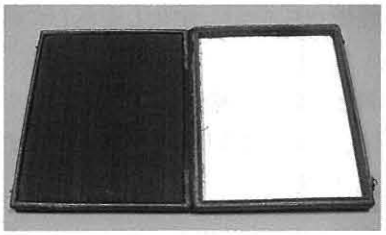

写真2.3.12　内側のつなぎ部を直し、クッションを戻す

２－４　ダゲレオタイプ収納ケースB　(20003863)

作　家：マシュー・ブレディのスタジオ
　　(MATHEW BRADY'S STUDIO)
作品名：題不詳（座っている男性の肖像）
制作年：1840年代
寸　法：90×80×125mm
寸法（画像）：70×58mm
撮影地：アメリカ合衆国
署　名：B. Brady case maker

写真2.4.1　修復後

作品の概要

写真家マシュー・ブレディは肖像スタジオをニューヨーク、ワシントンD.Cに三店舗開設していた。この作品はそのスタジオで制作されたものであるが、ブレディが撮影したかどうかは定かでない。1992年に収蔵。

収納ケースは、濃い茶色の総革装の合わせ木箱に、ツメが施されている。上下の箱は、裏表から革でつながれている。上箱には絹貼りのクッションが、下箱には内側周囲にビロードを巻いた縁取りがあり、作品（ダゲレオタイプ）が入るようになっている。上箱の表にレリーフ模様がある（写真2.4.1）。

修復前の状態

収納ケースの開閉に伴い、ノドのつなぎ部分の革に切れ目が入っていた（写真2.4.2）。ケースの内側には１cmほどの革の薄片の剥がれがあった（写真2.4.3）。作品を外した下箱の底に酸性紙が使用されていた（写真2.4.4）。

修復手順

① 修復前の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。
② 革のメンテナンスは、レザーソープで汚れを落とし、保革クリームを塗布した。
③ 底に貼られていた内張りの紙は薄く、酸性紙である為に、劣化し変色していた。作品保護の観点から中性紙と交換した。糊には中性糊を使用した。
④ 箱のつなぎ部分は元革を残し、革片で外側と内側から補修し、革の色味を整え、クッションを上箱に戻した。（写真2.4.5、2.4.6、2.4.7）。外側および内側のつなぎ部分には、修復用山羊革を使用した。
⑤ 修復後に点検、写真撮影および修復記録を作成した。

修復担当：近藤理恵

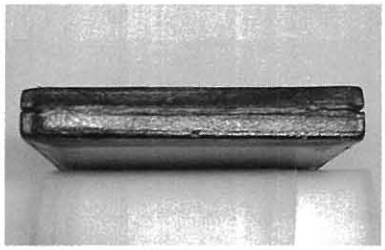

写真2.4.2　修復前　背のつなぎ部分に亀裂

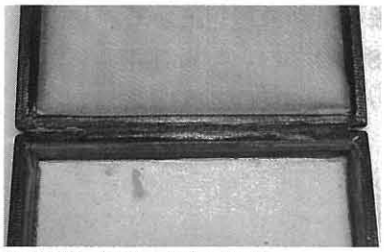

写真2.4.3　内側のつなぎ部の破損

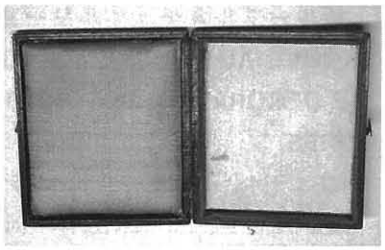

写真2.4.4　修復前　内側

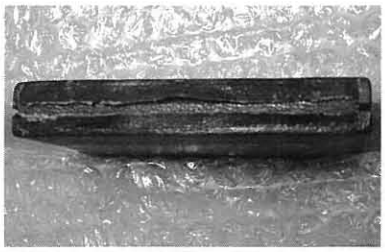

写真2.4.5　背；元革を残し、革片でつなぐ

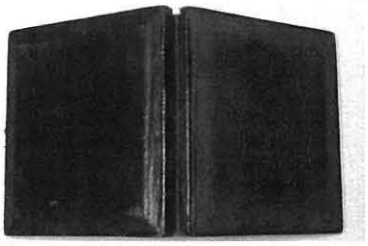

写真2.4.6　修復後　背の部分

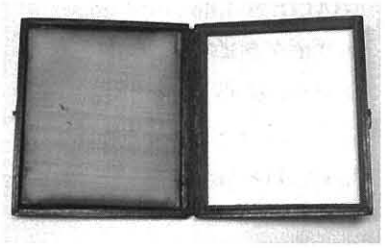

写真2.4.7　修復後

２－５　新ルーブル＆チュイルリー宮殿の装飾模様　第２部外　装（NOUVE AU LOUVRE & PALAIS DU DES TUILERIES MOTIF DE DECORATION SECONDO PARTIE DECORATIONS EXTERIEURES）

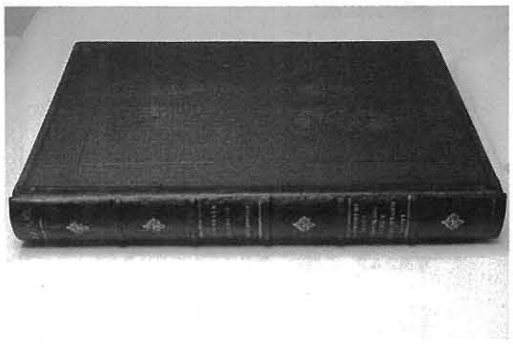

写真2.5.1　修復後

建築家：ルフェール、ヘクトール=マルティン
（LEFUEL, Hector-Martin）
作　家：バルデュス、エデュアール＝ドニ
（BALDUS, Edouard-Denis）
技　法：ヘリオグラビア
制作年：1855～1865年
出版地：17, RUED'ASSAS, PARIS
寸　法：458×344×51mm
頁　数：T.P, 1～100（21欠）

作品の概要

作品は、ヘリオグラビアによる建築装飾の模様100枚が収められた、アルバムの黒半革装である（写真2.5.1）。
表紙は、平に型押し枠模様が施された、クロス装黒である。
見返しにはマーブル紙が使用され、小口は白で、花布はバンド桃白である。
ノドのつなぎは黒クロスバンドで、綴じ方法は４バンドであるが、背の装飾である疑似バンドは５本である。

修復前の状態

表紙革の背がはずれ、天地の革の欠損とクロスの磨滅による破れがあった。また、ノドのクロスが、本の開閉の負荷によって切れていた（写真2.5.2、2.5.3、2.5.4）。本文の79頁は外れていたが、紙のサイズが異なるため、落丁ではないと考える。
この製本は、本文を紙の足でつなぎ、間に紙のバンドを入れて厚みを調節しているが、この紙の足に破損が認められた（写真2.5.5）。

修復手順

① 修復前の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。
② 背の補修を行なうため、表紙から中身は外した。
③ 本文紙葉のドライクリーニングをし、足の破損の補修を行なった。
④ とじ付けのためにとじ紐は補修し、表紙を中身につけ、ノドのつなぎ部分は和紙で補強した（写真2.5.6、2.5.7）。
⑤ 背に中性紙のクータを貼り、補強を施した（写真2.5.8）。
⑥ 背の革の欠損部に新しい修復用山羊革を貼った。
⑦ 補修した革を背に貼り、革の色調を整えた。
⑧ 見返しを貼った（写真2.5.9）。
⑨ 修復後に点検、写真撮影および修復記録を作成した。

修復担当：近藤理恵

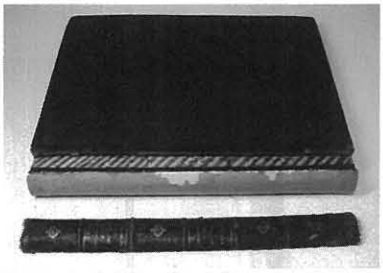

写真2.5.2　修復前　背のはずれ

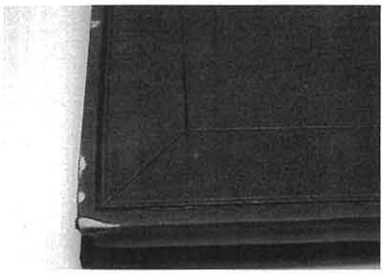

写真2.5.3　クロスの磨滅

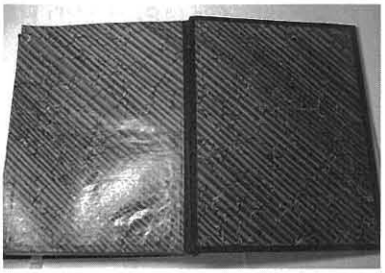

写真2.5.4　ノドのクロスの切れ目

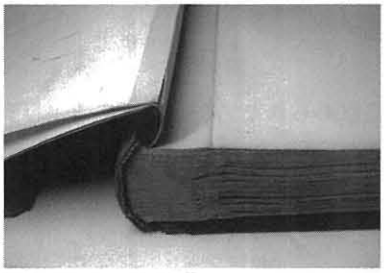

写真2.5.5　紙の足の破損

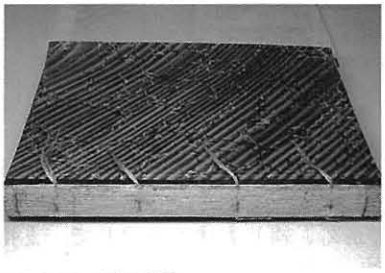

写真2.5.6　麻紐の補修

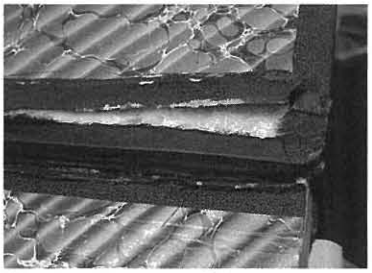

写真2.5.7　ノドのクロスの補強

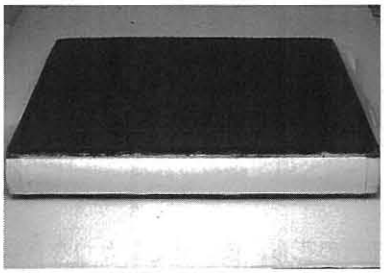

写真2.5.8　背の補強、クータを貼る

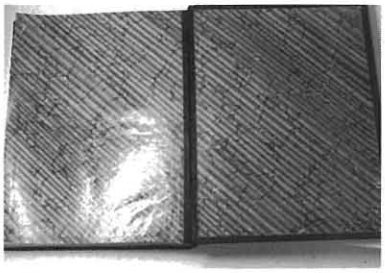

写真2.5.9　修復後　見返し

２－６　日本とハワイ（JAPAN AND HAWAI）（20016216）

著　者：T.S.HAMLIN
作　家：不詳
技　法：アルビューメンプリント
制作年：1889年
寸　法：276×322×40mm
頁　数：83（84紛失？）
撮影地：日本、ハワイ

写真2.6.1　修復後

作品の概要

作品は、東京を中心に風景や風俗が撮影されたアルビューメンプリントが、80点収められたアルバムである（写真2.6.1）。

表紙は、半革装・角革えんじに、平の型押しクロス装赤であり、金箔押しのタイトルと著者名が施され、革の縁には金線が装飾されている。背には金箔線で「１」とある。

小口は白で、花布はバンド２色（茶白）である。綴じ方法は糸綴じで、支持体に綿テープ３本が使用され、折丁は15折りである。

中身は、台紙となる紙葉を綿キャラコの足でつないだ形態で、各紙葉の表にアルビューメンプリントが貼り付けられている（プリントの左側５mm程糊付け）。1992年に収蔵。

修復前の状態

表紙の革は非常に劣化しており、背部分では破損や一部欠落、表面剥離や角革の角欠損が認められた（写真2.6.2、2.6.3、2.6.4、2.6.5）。

綿キャラコの足に糊のはがれ、また台紙の破れも認められ（写真2.6.6）、さらに天の花布、後の見返しとつなぎは失われていた（写真2.6.7）。

中身の背と表紙のつなぎに厚布を使用してあったが、膠が乾いて表紙がはずれていた。また、綴じが緩み、さらに綴じに使用されている綿テープのうち、裏の下２本が切断していたことも重なり、アルバム全体が歪んだ状態であった。

紙葉の１～83頁に、アルビューメンプリントが貼り付けられているが、70、72頁にはプリントの欠落、81頁は紙葉の欠落が認められた。23および82頁のプリントには、古い破れの修復跡が認められた。

修復手順

① 修復前の状態を調査・記録し、写真撮影を行なった。
② 中身は表紙から外し、紙葉の破れや足のはがれは補修した。
③ 本文の後に白見返しを加え、破損していた81頁の台紙は和紙で補強し、緩んでいた綴じは補修した（写真2.6.8）。
④ 天の花布を付け、和紙および寒冷紗で背の補強し、さらに背紙、クータを貼り付けた（写真2.6.9）。
⑤ 表紙４箇所の角革の補修を行い、革のメンテナンスを行なった（写真2.6.10）。
⑥ オリジナルの背を取り外し、新しい背と交換する方法、または新しい革をオリジナルの欠損部分に補革する方法とで検討した結果、革がひどく劣化をしているものの、なるべくオリジナルの革を残す後者を選択し、作業を行なった。
⑦ 表紙の背とクータはつなぎ、ノドのつなぎは和紙で補強した。さらにキャラコを貼ってつなぎ、裏の見返しのモワレ紙はキャラコに被せるように貼り付けた（写真2.6.11）。
⑧ 革の色調を整えた（写真2.6.12）。
⑨ 修復後に点検、写真撮影および修復記録を作成した。

修復担当：近藤理恵

写真2.6.2　修復前　表紙

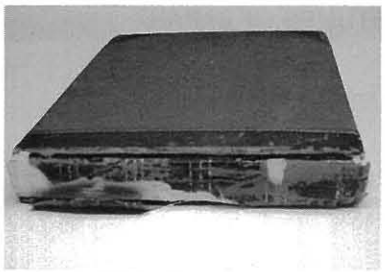

写真2.6.3　修復前　背

写真2.6.4　背の欠損（作業中）

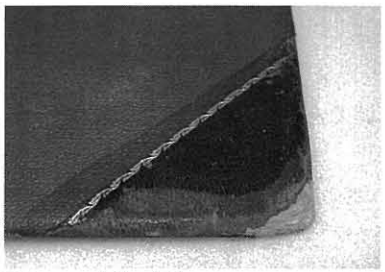

写真2.6.5　角革の磨滅

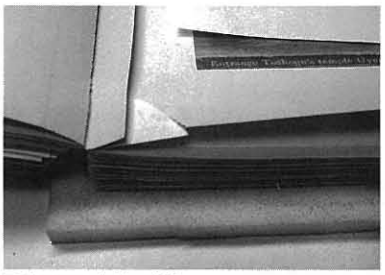

写真2.6.6　台紙の破損

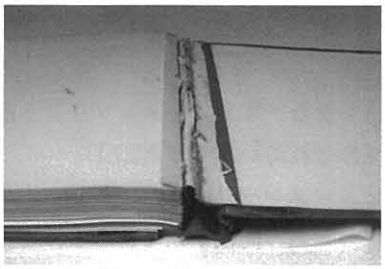

写真2.6.7　見返しの欠損

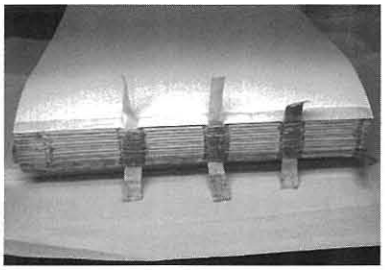

写真2.6.8　綴の支持体の補修

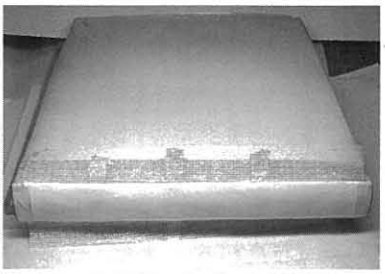

写真2.6.9　背の補強、クータの貼付け

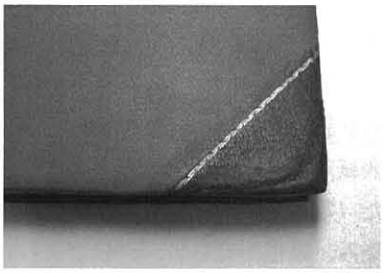

写真2.6.10　修復後　角革

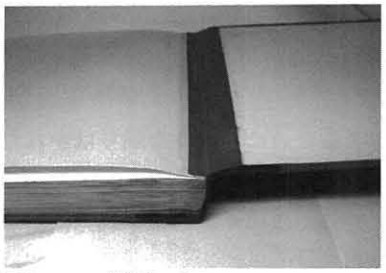

写真2.6.11　修復後　見返し

写真2.6.12　修復後　背

２－７　日本の服装と風景（VIEWS & COSTUMES OF JAPAN）

作　家：スティルフリード & アンデルセン
（STILLFRIED, Raimund Von & ANDERSEN, Hermann）
技　法：アルビューメンプリント
制作年：1877～1885年
撮影地：横浜
寸　法：326×375×59mm
頁　数：48葉

写真2.7.1　修復後　表表紙

作品の概要

手彩色を含むアルビューメンプリントが、99点収められたアルバムの紫色総革装である。明治初期の日本の肖像、風俗、風景が撮影されている（写真2.7.1）。

アルビューメンプリントは、紙葉（貼り合わせ厚紙）の両面に糊付けされている。また、画像表面の保護のため、ノド側の辺に薄葉紙の間紙が糊で留められている。

表紙の平に型押しがあり、背に５本の金箔線、表表紙のみ二重の枠線に金箔押しが施されている。小口は三方金で、花布はバンド赤白、見返しには、白エンボス模様紙を使用している。

製本は、キャラコ布の足によるつなぎ貼り合わせであり、綴じの支持体の柱は15mmで、本文と同紙である。1989年に収蔵。

修復前の状態

表の表紙革のノド部分は切断されていて、革の表面は磨耗し毛羽立ちが認められた。特に背の天地と表紙角の傷みが激しかった（写真2.7.2、2.7.3、2.7.4）。中身の本文紙は大きく波打ち、小さい破れがあった（写真2.7.5）。写真保護の間紙には、しわ、染み、破損が見られ、一枚は失われていた（写真2.7.6）。また、一部のキャラコ足に糊のはがれがあった。

背は貼り合わせであり、膠を用いて背に貼ったクロスが両表紙をつないでいた。しかし、開閉の負担から表側は切断され、そのため背が緩んでいた。

修復手順

① 本文の塵や埃等の汚れは、ドライクリーニングで除去し、本文の緩みを補修するために、可能な限りはがれた足を接着した（写真2.7.7、2.7.8）。
② 間紙のしわは、鏝（こて）を当てて取り除き、写真にかからない部分のみ、間紙の破損や糊のはがれた箇所を正麩糊で補修した。
③ 背からクロスや残った膠糊は、除去し、寒冷紗、和紙で背固めをし、花布はオリジナルを戻した。切断したクロスの代わりに和紙で表紙とつなぎ、背紙、クータを貼った（写真2.7.9、2.7.10）。
④ 革のメンテナンスとして、まず、レザーソープで汚れを落とし、保革剤を塗布した。切れた革を裏側から補修、また磨耗した表紙角革の補修を行なった。毛羽立った革を糊で押さえ整え、はがれた部分の革の色味を調えた（写真2.7.11、2.7.12、2.7.13）。
⑤ 修復後に点検、写真撮影および修復記録を作成した。

修復担当：近藤理恵

写真2.7.2　修復前　表表紙

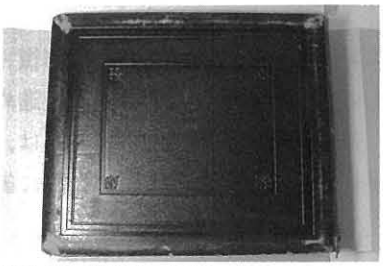

写真2.7.3　修復前　裏表紙

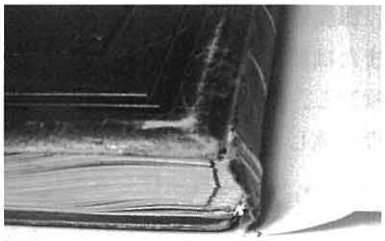

写真2.7.4　修復前　小口

写真2.7.5　修復前　表紙角および小口

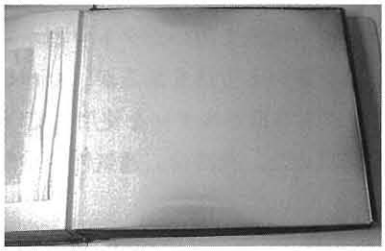

写真2.7.6　修復前　本文

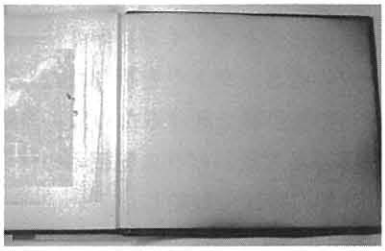

写真2.7.7　修復後　本文

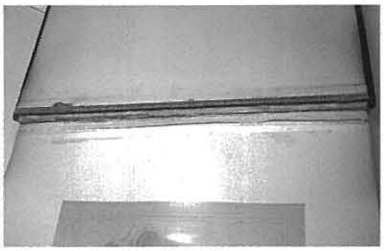

写真2.7.8　見返し合わせ部分

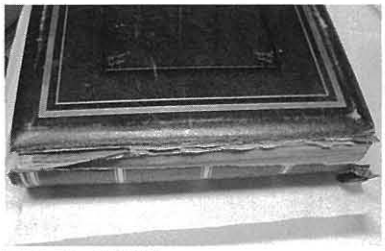

写真2.7.9　背の構造

写真2.7.10　背の補強

写真2.7.11　裏から革で補強

写真2.7.12　修復後　小口

写真2.7.13　修復後　裏表紙および小口

２－８　保護処理

収蔵または展示や貸出の際には、作品のコンディションを検査する。修復・保護が必要な場合には、その方法や使用材料等を検討し、処理後はその詳細を記録にとる。以下に挙げる例は、現在進めている棚卸の際に不備が見つかり、必要な保護処理を施したものである。また、今回、保護処理をした全ての作品には、ガラス板が使用されていたので、収蔵庫に収納する際は、落下の危険性を考慮に入れ保管庫（キャビネット）の低層に置いた。支持体がガラスの場合には、このような措置をすることが望ましい。

２－８－１　保護処理１

作品（例はダゲレオタイプ）の寸法に合わせ、中性紙を用いたタトウ型ホルダーを作製し、作品の画像面を上にしてタトウの中央に置き、タトウを折りたたむ。封筒を用いる方法もあるが、合わせ目の段差や糊の使用などの懸念から、少しでも画像への悪影響を避けるために、当館ではタトウ型ホルダーを使用している。

タトウに包んだ後、ガラス乾板用の保存箱に収めた。今回は、通気性や重量を考慮して詰めすぎないように、全シリーズ39枚を３箱に分けて収納した。

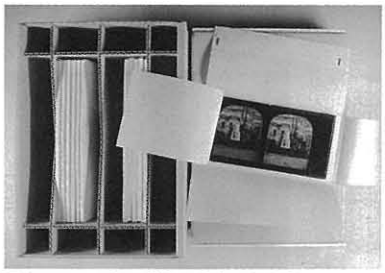

写真2.8.1　ガラス乾板の保存用収納箱

２－８－２　保護処理２

作品の運搬には、よくエアーキャップが使用される。これはあくまでも運搬用の作品保護のための一時的措置であって、保存に用いてはならない。なぜならば、エアーキャップは酸性ガスを放出し、写真画像にダメージを与える可能性があるからである。

写真2.8.2は、桐箱に収納された湿板写真（支持体はガラス）の例である。素材の異なる桐箱と湿板写真の分離保存は、作品の形態を保持するために行なわなかった。

手順は、

① エアーキャップを外した。

② 中性紙でタトウ型ホルダーを作製し、桐箱を中央に置き、タトウを折りたたみ、中性の紐で結んだ。

③ 中性紙の保存用収納箱にタトウに包まれた作品を入れた。

④ 箱の中で作品が移動しないように、中性紙のボードを加工して、隙間を埋めた（写真2.8.3）。

当館の収蔵庫には、写真2.8.2のような状態のものが多数認められる。これらについては、写真2.8.3のような保護処理を順次行なっている。

写真2.8.2　保護処理前

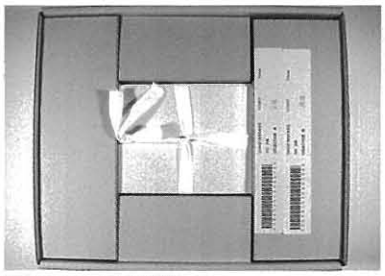

写真2.8.3　保護処理後

２－８－３　保護処理３

支持体がガラスである乾板や湿板の破損は、破損したガラス板の断面同士が接触して新たなガラスの小片が生じたり、破損箇所が画像面に接触して損傷を与えることを避けるために、破損面にボードを挟み固定する。

① ガラス板より大きい中性紙ボードを用意した。

② 破損したガラス板の小片を除去し、両面をきれいにし、中性紙ボードの中央に置いた（写真2.8.4）。

③ ガラス板の厚みに合わせた中性紙ボードを準備し、ガラス板のサイズに合わせて落とし込みを作製した。

④ 破損したガラス片同士が接触しないように、間隔をとり、その隙間に中性紙ボードを補填した。

⑤ ２枚の中性紙ボードを、動かないように中性の紐で結んだ（写真2.8.5）。

写真2.8.4　保護処理前

写真2.8.5　保護処理後

２－８－４　保護処理４

次は、貸出依頼を受けた際に作品のコンディションを検査したところ、裏蓋の２箇所にテープが貼られたのみで、留めがきちんとされていなかった例である。

制作当時には裏蓋を釘で留められていたと思われる痕跡が内側に認められた。しかし、既にこの釘が失われていたために、裏蓋は２mm落ち、作品を鑑賞するために表に反すと、木枠の中で湿板写真が揺れる状態であった。したがって、作品の運搬時の揺れを軽減するために保護処理を行なった。

① 簡易に貼られていたテープを剥がし、テープの糊跡を可能な限り除去した（写真2.8.6）。

② ２mm厚の中性紙ボードを木枠に合わせた寸法に裁断した（写真2.8.7）。

③ 湿板写真の裏に②のボードを乗せ、裏蓋を閉めた。

④ Filmoplastで周囲をシールした（写真2.8.8）。

写真2.8.6　段差とテープ糊跡

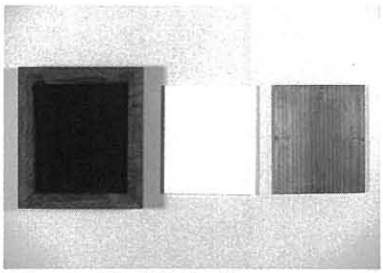

写真2.8.7　段差を補うボード

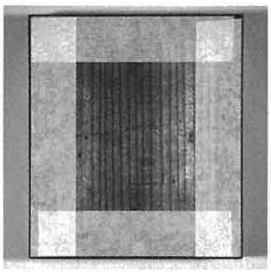

写真2.8.8　保護処理後